

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0570707174		
法人名	医療法人仁恵会		
事業所名	グループホーム夕陽の丘 2号館 (さくらハウス)		
所在地	秋田県湯沢市山田字中屋敷 14番地		
自己評価作成日	平成 22年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成22年10月29日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

当ホームは、認知症対応型共同生活介護の趣旨に則った、基本に忠実なホーム運営を心がけており、スタッフはあたりまえのことをあたりまえにできるよう日々努力しております。理念と個別ケアを重視することを大事な価値観としており、基本理念である「自立と相生」には、お互いに新しいものを生み出す関係という意味があり、また個別ケアが少しづつ他人とかかわりあいを持つことでケアの相乗効果を生むイメージを大切にしております。またこれを裏打ちする知識や技術の向上のため、内外の研修への参加や、資格取得を奨励しております。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

「自立と相生」という基本理念が全職員に周知されている。職員は理念を良く理解しており、一丸となって利用者一人ひとりの思いを大切に、自立に向けた援助が行われている。全職員が、元気で明るく思いやりを持って接していることが確認できた。また、災害時の体制については、地域住民の協力や、近くにある同法人運営の精神障がい者の生活訓練施設との連携が図られている。医療体制についても、同法人で運営する介護老人保健施設と24時間の連携体制が整備されている。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に 1 回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に 1 回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)-+ (Enter+)-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの趣旨に照らした理念を策定し、入職時、又定期的に理念教育を行っている。理念は運営方針や行動規範に反映させ、実践しやすいようにしている。	一緒に生活し、お互いの助け合いの中で新しいものを生み出す「自立と相生」を理念として掲げ、フロア会議(職員会議)等で理念や行動規範に関する教育が行われ、職員は常に意識して支援にあたっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域会に加入し、一世帯として各種行事、学校行事等に参加している。又、地域や小学校から車椅子を寄贈されたことがある。	地域の一員として、地域の祭り等のイベントや清掃作業に参加している。また、小学校との交流も行われている。隣組の仕組みがまだ残っており地域の中にどけ込んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域行事に利用者様と共に参加し、積極的に交流を図るように心がけている。運営推進会議等を通して認知症について説明し理解を求めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告のほか、認知症ケアの事例発表をし、認知症やグループホームに対する理解を深めて頂くよう努めている。意見などは、フロア会議で話し合い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は地区長や家族代表及び市の担当職員のメンバーで構成され2ヶ月に1回実施している。会議では、グループホームの取り組みの紹介や意見交換が行われている。会議で出された意見については、フロア会議で話し合いが行われ職員に周知されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で取り組み等を伝えているほか、必要に応じて報告、相談するよう努めている。	担当課に出向いて、情報交換を行っている。定員に空きが出た場合などは、包括支援センターから入居希望者の情報を提供してもらうなどの連携が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的事項の他、気付きにくい事例についても研修している。センサーを活用し、必要な施錠していない。	職員が身体拘束とは何かを正しく理解するため、総合研修やフロア会議の際、事例を示しながらの勉強会が行われていることを確認した。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束同様、基本事項のほか、気付きにくい事例や、気付いた場合の報告方法についても研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会など行い、学ぶ機会を設けている。又、必要な方がいた場合、活用できる様に支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を契約時に読み合わせ、不安や疑問点を尋ね、理解と納得をして契約して頂くよう配慮している。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで相談、要望等引き出す声掛けをしているほか、意見箱を設置して受け付けている。極力責任者が即応するほか、フロア会議で話し合い、迅速に対応している。	面会の時や、通院結果を家族に伝える時などに家族の要望を引き出すようにしている。また、運営推進会議の時には推進委員の家族代表から意見を伺っているほか、意見箱も設置して家族の要望を引き出すことに努めている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から風通しの良い組織を目指しており、その都度個々に話しを聞いたり、フロア会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。	普段から話をしやすい環境作り心がけ、研修会やフロア会議等でも職員が気軽に意見を話せる機会を設けている。入居予定者に関することも事前に伝えるなど、職員間の情報共有を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務査定を行い、昇給賞与に反映している。その際の面談を通して得た情報から、職場環境や条件の整備に反映するよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に内外の研修機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国団体に加入したり、湯沢市の管理者ネットワークに参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の相談、又面接時や契約時に不安に思っている事や困っている事など把握し、良い関係が築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の相談、又面接時や契約時に不安に思っている事や困っている事など把握し、良い関係が築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、出来る事を見極め、お手伝いしてもらっている。又、生活リハビリやレクリエーション等を通し、共に支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、常に状態を説明している。又、定期的の手紙などでも状態を報告し、共に支えていく関係を築いている。緊急の時は家族に付き添ってもらったり、帰宅願望がある人の家族へは、定期的に電話や面会をお願いしている。		
20	⑧)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族や知人の方々との面会や外出、外泊などの機会を設けて、関係が途切れないように努めている。本人の行きつけの理美容店を継続している方もいる。又、ユニット別々に入居した同級生や、前の施設で一緒だった人、若い頃近所だった人同士の関係が途切れないよう支援している。	馴染みの美容院を利用したり友人との繋がりを大切にするなどして、地域の馴染みの人たちとの関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを図れる様、環境を整えたり、時には仲介に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者様の今の状況を話され相談される家族もおり対応した。必要に応じて相談や支援に努めている。		
23	9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の思いや要望を話せる環境を作り、申し送り等で職員が把握出来るように努めている。伝えられない方には、本人の立場になり検討している。	入居に至るまでの様子や経歴、健康状態、暮らしの希望などを、本人と家族から聞き取り、利用者一人ひとりが得意なことを引き出す取り組みが行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生背景の把握を重要視しており、センター方式の活用や、前の担当者や事業所等から情報を得て把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り等で、個々の現状を把握する事が出来ている。		
26	10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族の意向を取り入れ、職員全員の意見を反映し介護計画を作成している。	ご本人家族の面会時や電話の際などに要望等を伺い、入居時に聞き取ったことを参考に、職員全員で意見交換を行った上、介護計画を作成している。また定期的にモニタリングも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録があり、日々の様子を具体的に記録している。又、ユニットに申し送りノートがあり全職員が情報を共有し統一したケアの提供に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、地域の行事等に利用者様と一緒に参加し楽しんでもらっている。又、各機関と連携、協力しながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人が希望する医療機関を受診している。主治医や協力医療機関、又気軽に相談できる薬剤師や看護師がおり連携をとっている。	希望するかかりつけ医があれば、職員が付添って受診している。また、協力医療機関や薬局等ともいつでも相談でき、連携が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として老健の看護師が定期的に来訪し、相談や助言をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や直接赴き、医療機関との情報共有に努めている。入退院がスムーズに進むように、家族のフォローにも配慮している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族には重度化や終末期の方針を伝えている。現在、事業所には、看護師がおらず往診できる医師の確保も難しい。その為、家族や主治医と連携しホームで出来る事等を共有し支援している。	家族等には、利用契約時に重要事項説明書で重度化した場合の指針を示し、説明した上で同意を得ている。また、尊厳のある看取り支援についての検討が行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救急救命の講習を受けている。また、緊急時対応マニュアルを準備しており、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画により訓練を年2回行っており、消防隊・地域の消防団・地域代表者にも協力を得ている。	地域の消防団の協力のもとで、年2回日中と夜間の想定で避難訓練を実施している。また、地区住民や近くの法人運営施設との連携が図られている。地震などの際に、電話が使えなくなることも想定し、法人内ネットワークを活用してメールで連絡できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛け 対応を心がけており、プライドを傷つけないようプライバシーに配慮している。又個人情報に関しても細心の注意をはらっており職員間にも周知している。	トイレの支援時には必要に応じて膝掛けを使用したり、入浴支援の際には入り口にスクリーンをかけるなど、プライバシーの保護に配慮している。管理者は、利用者の思いに配慮できるような職員の育成を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや願いを傾聴するように、又申し送り等で統一したケアを心掛けている。意志を伝達出来る方には、自己決定できるよう働き掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添った生活ができるよう一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出着と普段着をわけるなど、その時々に合わせて装いが出来るよう支援している。又、行きつけの美容院を利用する方もおり家族と一緒に出かけ、気分転換を図られている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、好みに応じた食事を提供している。又、職員と一緒に食事準備や片付けを行っている。	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、好みに応じて代替食を提供するなどの配慮をしている。準備や後片付けは職員と利用者が一緒に行い、献立は栄養士が作成している。訪問調査当日も、楽しい雰囲気の中で食事をされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を利用し一日の水分量が確保できているか把握している。また、食事に関して毎食時にチェックすると共に体調面にも配慮し、その都度食事形態を変えたりすることで、栄養状態の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしたり、出来ない方にも介助をすることで口腔清潔に努めている。又、夕食後は入れ歯を外して就寝してもらっている。週1回はポリデントにつけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや特徴的な仕草を把握し時間毎にトイレ誘導をしている。夜間失禁する方もオムツは使用せずに、声掛けしトイレ誘導している。	個々の排泄のパターンを把握し、おむつを使用しない取り組みが行われている。入居前にオムツを使用していた利用者が現在使用していないケースもあるなど、職員の取り組み姿勢を確認できた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルト等の提供とこまめな水分を摂ってもらっている。又、体操も毎日取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のサイクルはあるが、本人の希望や健康状態にあわせ、柔軟に対応している。入浴前のバイタル測定は欠かさず行い、ゆっくり入浴してもらっている。	週2~3回、本人の希望や健康状態に合わせて入浴支援が行われている。入浴の時間についても柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよ眠れるよう支援している	本人のペースにあわせ休息をとってもらっている。日中はなるべく体を動かすことで夜間安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力的な薬局があり、新処方や追加処方時は、副作用・用法・用量を確認し理解に努めている。また、服薬一覧表を作成することで全職員が把握出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量を把握し、食事準備や後かた付け等で役割を持っていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣を散歩したり買い物に出掛けたり極力、外に出掛けられるよう支援している。また、日々の会話でどこに行きたいかを聴く事で、年間外出行事に取り入れるようにすると共に、年2回は家族と一緒に外出行事を行う機会を設けている。	3月に行事予定を計画する際に、希望を聞いて行き先等を決めている。買物の外出や旅行で遠方に行くなどの支援が行われている。また、笑顔がいっぱいのスナップ写真が廊下に飾られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じお金を所持してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話す時は、居室でゆっくりと話が出来よう子機を使用している。現在、手紙を書く人はいないが、ホームへ来た手紙や贈り物は本人に伝わるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の換気はもちろん、臭いに関しては芳香剤を使用せず、原因を除去するよう支援している。又、温度調整にも常に気を配っている。共同空間には、季節にあった装飾や写真、玄関には、四季おりおりの花が飾っている。	ホーム内には、草花が随所に置かれているほか、行事の際の写真が飾られるなど、利用者が楽しめるように工夫されている。また、畳のスペースも用意されているなど、ゆっくり寛げるような環境となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	座敷やソファなどがあり、気の合う利用者様同士で談笑したり、テレビを見たり思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のなじみの物や使い慣れた物を持って来てもらっており、居心地良く生活出来るよう工夫をしている。	居室には使い慣れた物や馴染みの物が置かれ、居心地よく過ごせるような環境作りが行われていることが確認できた。。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりが設置されている。又、トイレの表示をしたり、居室入り口に名前を貼っており混乱を防いでいる。職員がわかる事を把握しており、自立支援に努めている。		